図書館だより

2023

1

特集

「やさしい心」

一般展示

「文豪交遊録」

「歌・唄・詩」

YA 展示

「知ってる？あのドラマの原作」

新刊紹介

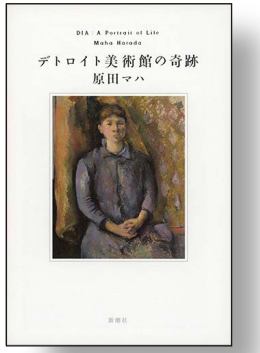
図書館員の本棚

杉並区立中央図書館

今月の特集

やさしい心

心があたたかくなるお話の本をご紹介します。
読んだ後には、やさしい気持ちが広がり、寒さや忙しさで日頃乾いてしまった心を潤いでいっぱいにしてくれます。



『デトロイト美術館の奇跡』

原田　マハ／著
新潮社　2016.9
請求記号：913.6 ハラ

ゴッホやセザンヌといった綺羅星のようなコレクションを誇った美術館は、2013 年、市の財政難から存続の危機に。市民の暮らしと前時代の遺物、どちらを選ぶべきなのか？ 全米を巻き込んだ論争は、ある老人の切なる思いと行動によって変わっていく。

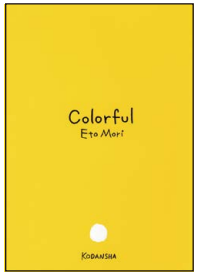
『旅猫リポート』

有川 浩／著　　文藝春秋　2012.11
請求記号：913.6 アリ

サトルは、とある事情により愛猫ナナを手放さざるを得なくなる。ナナの次の家族を探す旅をする事になるのだが、徐々に明らかになるサトルの過去と現在。2 人の旅の結末は？

『カラフル』

森 絵都／著　　講談社　2011.11
請求記号：913 モ



「おめでとうございます、抽選に当たりました！」天使にこう言われ、罪を犯し一度死んだ「ぼく」は人生に再挑戦するチャンスを得る。他の体を借りて様々な人と関わるうちに気持ちに変化が。

1階　一般展示１

文豪交遊録

１月６日（金）～２月１日（水）

文豪といえば作品だけでなく、彼らの個性的なエピソードも魅力的です。食や住まいの話から、ユーモラスな交友関係まで話題に事欠きません。どんな人物だったのか、彼らの知られざる一面を紹介します。

『文豪たちの友情』

石井 千湖／著
立東舎　2018.4
請求記号：910.26 イ

文豪の友情から、仲たがいのいざこざまでを紹介した一冊。有名作家という印象から一転、とても人間らしいエピソードが盛りだくさんです。文豪たちの関係図を見ていけば、作品に対する印象も変わってくるかもしれません。

『文豪と感染症
100 年前のスペイン風邪は
どう書かれたのか』

永江 朗／編
芥川 龍之介／著
秋田 雨雀／著
朝日新聞出版　2021.8
請求記号：BG ナ

罹患した当時の日記など、文豪による感染症の記録。

『すごい言い訳！
二股疑惑をかけられた龍之介、
税を誤魔化そうとした漱石』

中川 越／著
新潮社　2019.3
請求記号：910.26 ナ

作家の能力を遺憾なく発揮した言い訳の数々。

1階　一般展示２

歌・唄・詩

うた　うた　うた

１月６日（金）～２月１日（水）

人は古より、31 文字、17 音と限られた音数の中で自己を表現してきました。その世界観を味わい、創作してみませんか。期間中、皆様の作品を募集します。

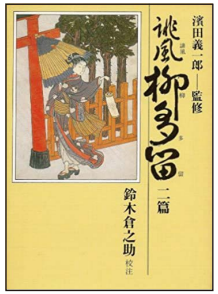
『サラダ記念日　俵万智歌集』

俵 万智／著
河出書房新社　2016.7
請求記号：911.16 タ

口語体でも、季語がなくても、身近な題材でも短歌がつくれるということを示した、短歌の概念を覆し、ブームを巻き起こした１冊。

『誹風 柳多留　２篇』

鈴木 倉之助／校注
社会思想社　1985.5
請求記号：BG ヤ



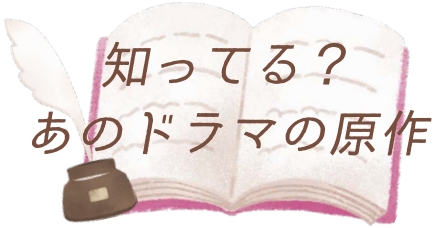
川柳の名の由来、柄井川柳の選んだ作品集。前句付の遊びから発生した川柳は名もなき一般庶民の感情がよく表れ、時代を超えて共感してしまう。

『おくのほそ道』

芭蕉／著
萩原 恭男／校注
岩波書店　1979.1
請求記号：BG マ

松尾芭蕉の紀行及び俳諧。各地で詠まれた俳句は、誰もが知る有名なものであり、日本の古典における紀行作品の代表的存在である。

2階　ＹＡ展示



１月６日（金）～３月１日（水）

みなさんが普段目にするドラマの中には、小説を原作とする作品が多くあります。映像で楽しむのも良いですが、原作を読んでまた違った視点から作品の魅力に触れてみませんか？

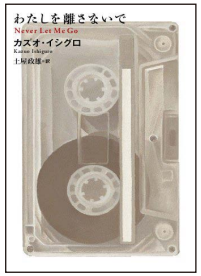
『アルジャーノンに花束を』

ダニエル・キイス／著
小尾 芙佐／訳
早川書房　2015.4
請求記号：933 キ

幼児ほどの知能しかない主人公の青年は、ある実験によって天才的な頭脳を手に入れます。あんなに望んだ知性が手に入ったにもかかわらず、実験がもたらしたのは決してよいことばかりではありませんでした。人生において大切なこととは？世代を超えて読み継がれる不朽の名作。

『わたしを離さないで』

カズオ・イシグロ／著
土屋 政雄／訳
早川書房　2006.4
請求記号：933 イ



もしも自分の人生が生まれる前から全て決まっていたらあなたはどうしますか？残酷なほど悲しい運命に翻弄される、若者たちの一生を克明に描いた儚く切ない物語。

『下町ロケット』

池井戸 潤／著
小学館　2010.11
請求記号：913.6 イケ

夢は自分たちが作った部品でロケットを作ること！小さな町工場を舞台に、夢とプライドをかけた社員たちの熱き戦いが始まる。これから社会に出る人に、ぜひ読んでほしい１冊。

中央図書館に入った

新刊紹介

『世界の美しい城』

フィリス・G. ジェスティス／（編）著　原書房　2022.10
パリジェン 聖絵／訳　請求記号：520 シ

さまざまな時代の何層にも重なった歴史を教えてくれる城。古城や要塞から、ロマンチックな中世・近代の城、童話のモデルとなった華麗な城まで、世界各地の砦、要塞、塔、城郭を、写真と簡潔な説明で紹介する。

『パセリカレーの立ち話』

平松 洋子／著　プレジデント社　2022.11
請求記号：596 ヒ

納豆の息切れ、お茶漬け事件簿、貧乏なサラダ……。くすりとおかしく、はらりと切ないエッセイ集。パセリカレーをはじめ、計８つの名レシピも収録。『dancyu』連載「台所の時間」をもとに加筆・再編集し、単行本化。

『小田嶋隆の友達論』

小田嶋 隆／著　イースト・プレス　2022.11
請求記号：361.4 オ

人と人とがたやすくつながってしまう時代、はたして友だちとは何だろうか？名コラムニストが、自身のコミュニケーション・ブレイクダウンについて考察すると同時に、他人という地獄に苦しんでいる若い人に対処法を伝える。

図書館スタッフのおススメの本を紹介するコーナー

図書館員の本棚

『ねにもつタイプ』

岸本 佐知子／著
筑摩書房　2007.1
請求記号：914.7キシ

作者は、有名な作品を多数手がけている翻訳家。本書は日常生活を綴ったエッセイ集です。

郵便局での死闘、トイレットペーパーとの会話、頭の中で繰り返す「プリティーウーマン」前奏の納め方……。日々の暮らしの出来事が、作者の感性というのか、妄想で語られています。

財布に入れておいたはずのお札が消えているとき、秘蔵のお菓子がいつのまにか半分減っているとき、作者は妖精のしわざと言い切ります。私もそう。最近、やたらと妖精の所業のえじきになっています。

このエッセイを読んで、普段の生活のイライラやちょっとした不安は、少し視点を変えるだけで笑いに変えられることを発見。幼い頃のたわいない思い出や、些細なこだわりが意外にも毎日を楽しくさせるのかもしれません。

本のタイトルとは裏腹に失敗は水に流して、これからの人生を気楽に生きていけそうな気持ちにしてくれる１冊です。

１月のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21 一般映画会
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

：あかちゃんタイム

：おはなし会

詳細は なかよしつうしん をご覧ください。

一般映画会

『天使のいる図書館』

１月２１日（土）

①午前 10：00～　②午後 2：00～

定員 30 名（先着順）

開館時間

月～土　９：００～２０：００

日・祝　９：００～１７：００

休館日　第１・第３木曜日

１月１日（日）～５日（木）

新型コロナウイルス感染防止の為
マスク着用をお願いいたします。
長時間のご利用はお控えください。

詳しくは、図書館カレンダー、
図書館ホームページをご覧ください。

所在地
〒167－0051
杉並区荻窪3－40－23
☎ 03－3391－5754

公式HP

図書館だより
２０２３年 １月 ６ 日
杉並区立中央図書館　発行